

平成18年度から勝山市では、指定管理者制度を導入しました。昨年4月には、温泉センター「水芭蕉」と「勝山ニューホテル」、そして12月末には「勝山市営温水プール」で同制度が導入されています。

同制度が導入されてほぼ一年が経過しようとしている今、その制度が市民サービスにどのような効果をもたらしたか追跡調査するために、温泉センター「水芭蕉」を訪ねました。

勝山市では、平成17年度温泉センター特別会計繰出金に2500万円の予算を計上しました。そして、指定管理者制度導入により、平成18年度予算は1400万円となり、財政面では大幅な減額となりました。それでは、サービス面ではどうなったでしょうか。

水芭蕉を運営している「有限会社YアンドY」のマネージャーに、新たな



取り組みについて聞きました。まずは、接客サービス。利用客のたからの質問や注文には、その都度調べたり、連絡をとるなどして対応し、スキー客には、道案内や交通情報の提供に努めているとのことでした。

次に、「ふれあい亭」の取り組み。これまでテナントとして貸し出していた「ふれあい亭」を水芭蕉独自で経営し、春にはたらの芽やこしあぶらなどの山菜の天ぷら、夏には地鮎、秋には松茸といった季節の素材を活かしたメニューを始めました。

また、玄関に日替わりのお勧めメニューを掲示して、利用者にアピールしています。

さらに、売店をオープンし、スキー客や観光客などの土産物や勝山市の特産品の紹介をしています。また市内の利用客には、軽食やお菓子の販売で利便性アップを図ります。水芭蕉では、さらに勝山の特産品をアピールしたいので、市内のかたで関心があれば連絡がほしいとのことでした。

これ以外にも、ロッカーの配置替えや12月から3月までの期間を無休にするなど、民営ならではのサービスの展開に努めているとのことでした。



利用者からの声 1

坂井 廉一さん(30才) 旭毛屋町



家族と共に水芭蕉にて

「水芭蕉を利用される理由は、「家から近いことや、バスケットボールなどのスポーツ後に、サウナやジェットバスで筋肉の疲れを癒し、足腰の負担を軽減するなど、心身のリフレッシュに効果抜群です。」とのことでした。

サービスの面でお尋ねすると、「ポイント制の導入は、15個のポイントで1回の無料利用ができ、家族での利用には助かります。また、12月からの無休は、これまでになかったサービスで評価できます。

この他にも、風呂場のガラスの手入れが良くて明るくなり、フロアの景観もよくなりました。また、ふれあい亭のお勧めメニューが玄関に表示され、分かりやすいですね。」とのことでした。

利用者からの声 2

山口 紀子さん(66才) 旭町2



「水芭蕉に通われているとのこと。その理由は、「自宅に風呂はありませんが、水芭蕉は温泉だから体が芯まで温まり、足腰にいいので利用しています。温泉のお風呂は、湯冷めしません。ですから、水芭蕉の温泉を約1時間利用した後、汗がひくまでロビーで約30分休憩しています。」とのことでした。

指定管理者制度が導入されているの感想は、「ロッカーの配置が替わって、ロビーが広くなり、良くなりました。また、スタンプリングの導入は、毎日利用する私たちには、ありがたいです。」とのことでした。

水芭蕉は、平成2年秋にオープンしてから、築後16年以上が経過し、カーペットの張り替えなど改修を求める声もあります。今後、市と連携を図り、さらに充実した温泉施設として、利用者から親しまれ続ける対応が求められています。



各地で冬の伝統行事

市内各地で市指定の文化財となっている様々な伝統行事が行われました。

「滝波のお面さんまつり」

2月11日、滝波町ふれあい会館で「滝波のお面さんまつり」が行われました。今年も、翁、三番叟、父尉の3面がほほ笑み、豊作と良運が約束されました。



1年に一度、開帳されるお面さん

「谷のお面さんまつり」

2月16日、北谷町谷地区の集會場で「谷のお面さんまつり」が営まれ、訪れたかたがたは、開帳された4つのお面を前に豊作と幸運を祈願しました。



恒例となった、ござ帽子姿の雪だるまが幻想的な風景を作り出す

「観音さまのおすすめ」

2月17日、遅羽町北山地区の長谷川義孝さん宅で「観音さまのおすすめ」が行われました。男衆が容赦なくお粥を山盛りについて回ると、会場内は悲鳴と笑いで一杯になりました。



「観音さまのおすすめ」とはやしながら次々と盛っていく

勝山高校チームが知事賞

IT普及のために活動する自主グループ「勝山IT研究会主催のふくい県民総合文化祭」IT文化フェスティバル「高校生ホームページコンテスト」が、奥越地域地産産業振興センターを会場に24日開催。

このコンテストは、「わが街自慢」をテーマに、ホームページで紹介する内容を競うものです。

県内7校12チームが参加した中から、勝山高校「We Are 山岳部」(嶋田翔太さん、山形和弥さん)の作品「勝山に登ろう」が、見事、知事賞に輝きました。

この作品は、勝山の登山で有名な山を紹介する内容となっています。



司会者から受賞の喜びをインタビューされる嶋田さん(右)と山形さん(中央)

春の火災予防運動 3月20日(火)~26日(月) 住宅防火 いのちを守る 7つのポイント -3つの習慣・4つの対策-

- 3つの習慣**
- 寝たばこは、絶対やめる。
 - ストーブは、燃えやすいものから離れた位置で使用する。
 - ガスこんろなどのそばを離れるときは、必ず火を消す。
- 4つの対策**
- 逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置する。
 - 寝具、衣類及びカーテンからの火災を防ぐために、防炎品を使用する。
 - 火災を小さいうちに消すために、住宅用消火器等を設置する。
 - お年寄りや身体の不自由な人を守るために、隣近所の協力体制をつくる。

全国統一標語 「消さないで あなたの心の 注意の火。」
勝山市統一標語 「けいほう器 つけて安心 火の用心」